

平成 24 年 5 月 29 日

電通総研、「退職リアルライフ調査～団塊ファーストランナーの65歳からの暮らし～」を実施
— 団塊ファーストランナーの72%は65才以降も仕事継続を希望、
妻の75%も夫が働くことを希望—

電通総研は、1947年～49年に生まれた団塊世代のファーストランナー(1947年生まれ)が65歳を迎えるにあたり、「退職リアルライフ調査～団塊ファーストランナーの65歳からの暮らし～」を実施しました。

本調査は、65歳となり本格リタイア期を迎える団塊ファーストランナー男性200名と彼らを夫にもつ女性100名を対象に、65歳以降の仕事や暮らしに対する意識や行動について、インターネットで調査を行ったものです。雇用延長や定年延長によって、60歳以降も働くことを選択してきた団塊世代は、年金受給年齢となる65歳を迎え、今後の健康や体力の衰えを心配しつつも、まだまだ働いていたいと思い、その妻たちも夫にはまだまだ働いてほしいといった気持ちを持っていることが明らかになりました。

主な調査結果は以下のとおりです。

----- 【主な調査結果】 -----

1. 60代前半は65歳からの暮らしに備えた助走期間。定年退職記念旅行は定番行動に。(図2参照)
2. 65歳からの暮らしについて、41.7%が「不安と楽しみが半々くらい」。不安なことは「健康を損なうこと」(52.3%)、次いで、「年金制度や医療制度が変わり、年金や医療費負担が変わること」(41.7%)。(図3、4参照)
3. 団塊ファーストランナー男性の72.0%が、65歳以降も働くことを希望。団塊ファーストランナー男性を夫にもつ妻の75.0%も夫が働くことを希望。団塊ファーストランナー男性のほぼ4人に1人(24.0%)は、65歳以降の生活の中心が「仕事」。(図5～8参照)
4. 自由に外出や運動ができる年齢は76.8歳(男女全体平均)までと予想。男女とも70代半ばまでは自由に外出や運動ができるとの考え。65歳以降にすべきことは、「体力づくり・健康管理」(男性74.0%、女性58.0%)「節約・検約」(男性33.5%、女性45.0%)。(図9、10参照)
5. 年金を「生活費の中心」だという人は76.5%。65歳以降の生活費、こづかいは、現在の約8割に。(図11、12参照)

調査結果の詳細は次ページ以降のとおりです。

【調査結果の詳細】

1. 60代前半は65歳からの暮らしに備えた助走期間。定年退職記念旅行は定番行動に。

- ・60代前半の生活を振り返ると、44.5%が仕事よりプライベートを重視するようになり、32.5%が60歳までとは新しい気持ちで過ごせたことを実感。また、36.0%が安定的な収入が得られてよかったと回答。
- ・75.9%が定年を契機に何らかのことに実施。定年退職を契機にした行動で最も多いのは、「夫婦での旅行」39.0%。夫婦旅行は定年退職の定番行動に。

図1 60代前半に感じたこと (MA)

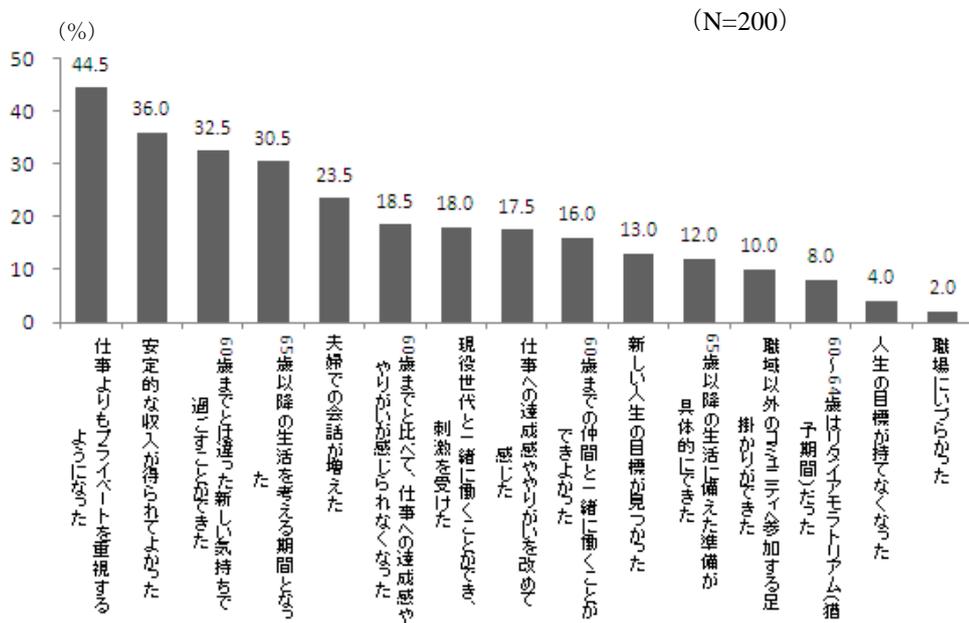
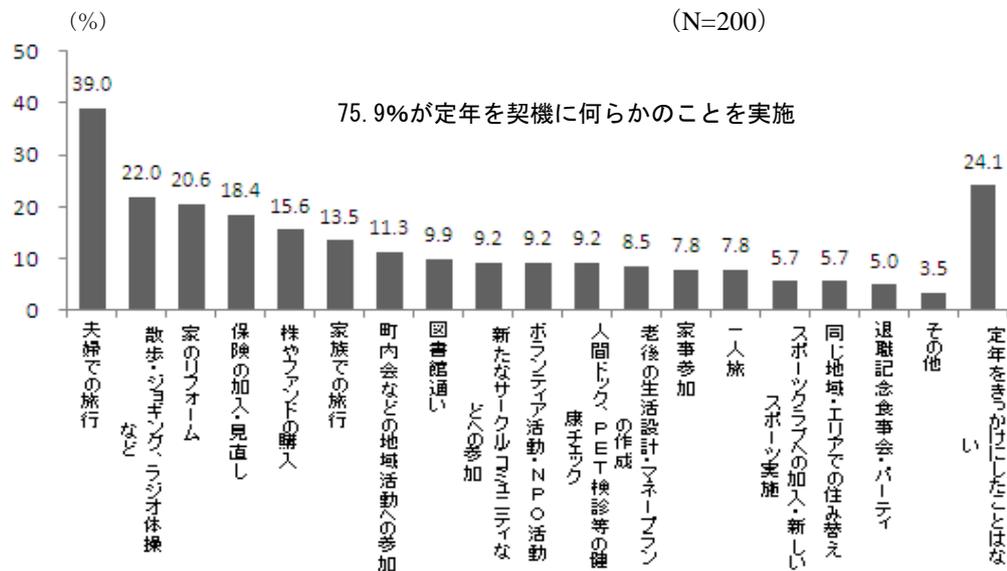


図2 定年退職を契機にしたこと (MA)



2. 65歳からの暮らしについて、41.7%（男女全体平均）が「不安と楽しみが半々くらい」。不安なことは「健康を損なうこと」（平均52.3%）、次いで、「年金制度や医療制度が変わり、年金や医療費負担が増える」（平均41.7%）こと。

- ・65歳以降の暮らしについて、楽しみか不安を聞いたところ、全体の41.7%が「不安と楽しみが半々くらい」。団塊ファーストランナー男性は、44.0%が楽しみと答える一方、女性は31.0%が不安と答えており、夫婦間の気持ちのギャップが明らかに。
- ・65歳の暮らしで不安なことは、男女とも「健康」。男女とも約半数が健康を損なったり体力が衰えることを不安に思っている。次いで、「年金制度が変わり年金が減ること」（男性39.0%、女性47.0%）や「医療制度が変わり医療費の負担が増えること」（男性34.0%、女性42.0%）を心配。国の制度変更によって、金銭的な負担が増えることを不安に思っている。また、団塊ファーストランナーを夫にもつ妻たちの45.0%が、「夫が時間をもてあますこと」を不安に思っている。

図3 65歳以降の生活 楽しみ・不安度合い (SA)

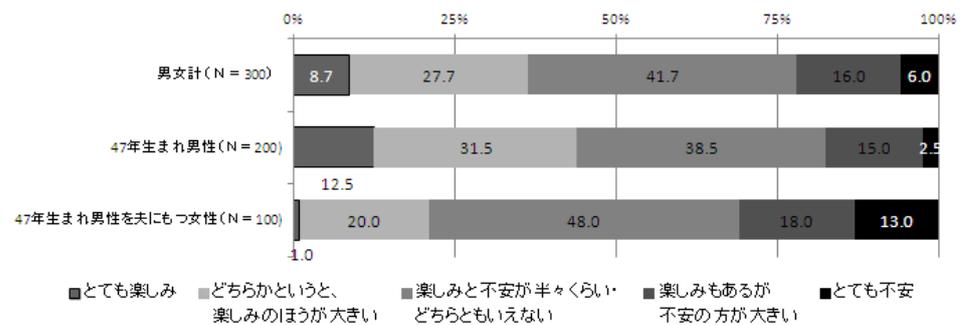
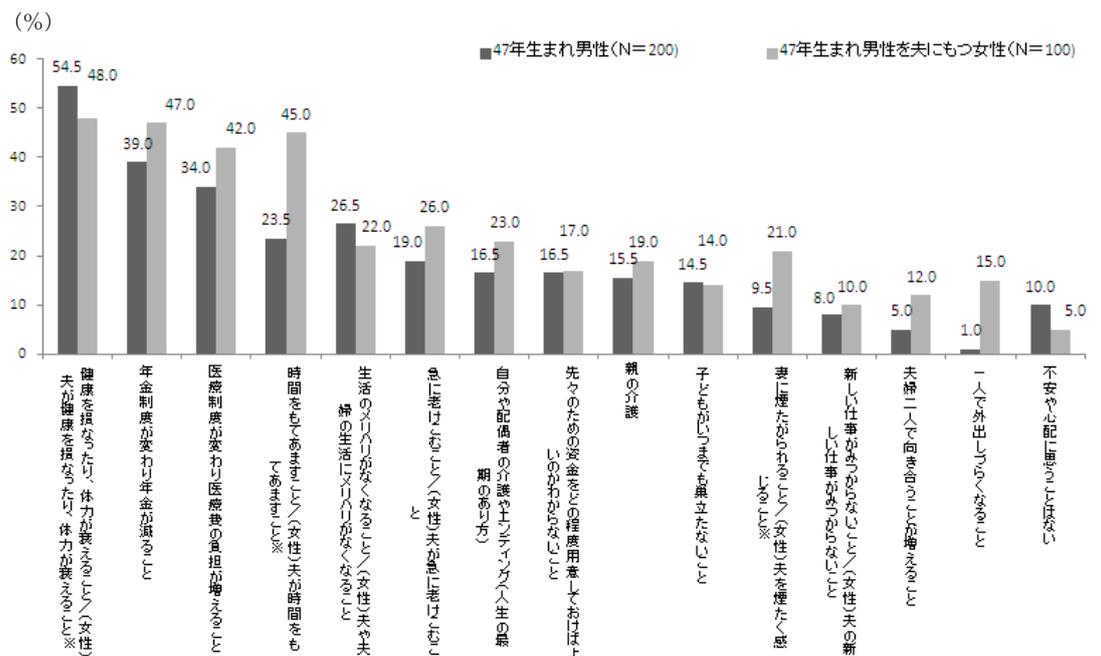


図4 65歳の暮らしで不安なこと (MA)



3. 団塊ファーストランナー男性の72.0%が、65歳以降も働くことを希望。団塊ファーストランナー男性を夫にもつ妻の75.0%も夫が働くことを希望。団塊ファーストランナー男性のほぼ4人に1人(24.0%)は、65歳以降の生活の中心が「仕事」。
- ・65歳以降の仕事について、団塊ファーストランナー男性の72.0%が65歳以降も働きたいと思っている。なお、仕事希望の有無にかかわらず、調査時点での仕事の決まり具合を聞いたところ、47.5%が決まっており、29.0%がこれから探すつもり・探す予定だと回答。
 - ・65歳以降の生活の中心は、「趣味・スポーツ」だと考えている人が最も多い(35.0%)が、ほぼ4人に1人(24.0%)は「仕事」が中心だとしている。

図5 65歳からの働くことについて (SA) (N=200) 図6 仕事決まり度合い (団塊ファーストランナー男性) (SA) (N=200)

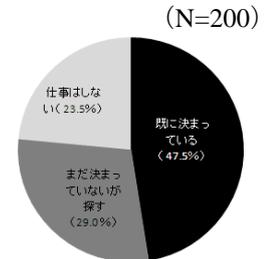
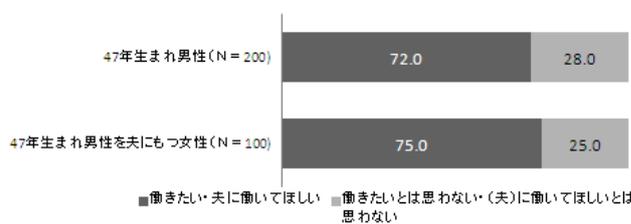


図7 65歳以降の仕事について (SA)

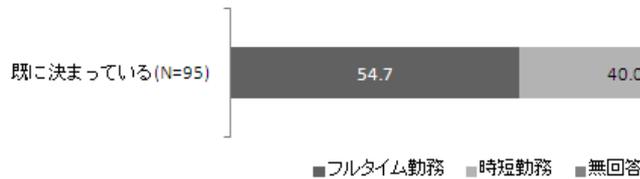
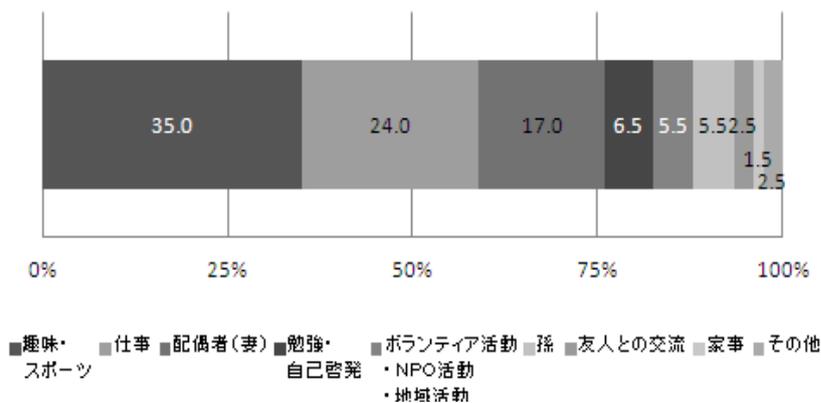


図8 65歳以降の生活の中心 (SA)



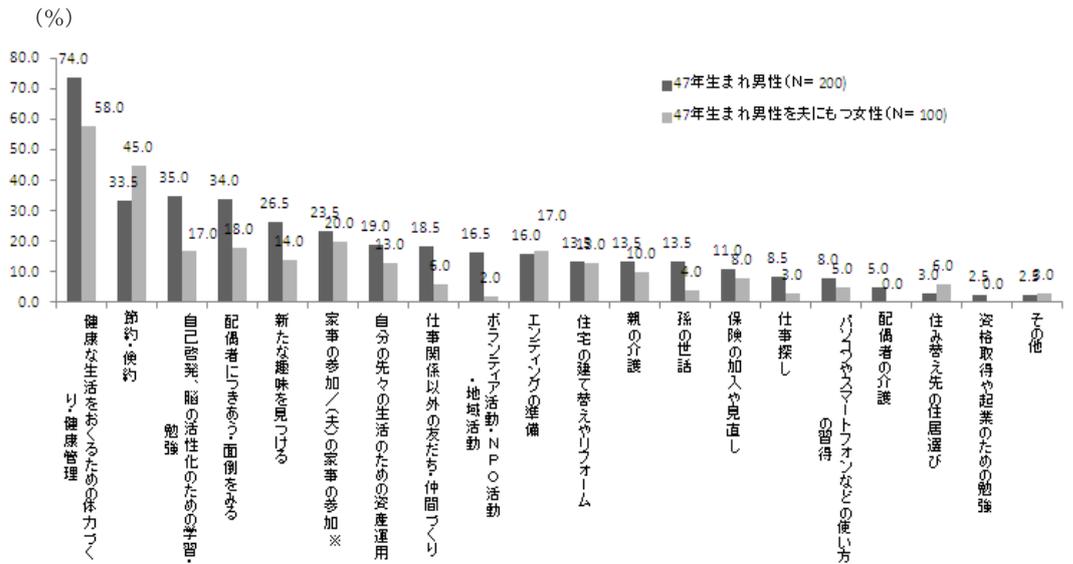
4. 自由に外出や運動ができる年齢は76.8歳（男女全体平均）までと予想。65歳以降の生活すべきことは、「体力づくり・健康管理」（男性74.0%、女性58.0%）「節約・儉約」（男性33.5%、女性45.0%）。

- ・自由に外出や運動できる年齢を予想してもらったところ、男性の平均は77.4歳、女性の平均は75.8歳、全体を平均すると76.8歳となった。男女ともに70代半ばまでは、自由に外出や運動ができるのではないかと考えている。
- ・60代後半の暮らしの中ですべきことは、まずは健康管理。男女ともトップに挙げたが、特に男性では74.0%が「健康な生活を送るための健康管理」をすべきと考えている。次いで「節約・儉約」。なお、男性では、「節約・儉約」「自己啓発・脳の活性化」「配偶者につきあう・面倒をみる」のそれぞれの項目で34.0～35.0%もの回答があった。

図9 自由に外出や運動できると考える年齢（FA）

	全体平均	団塊ファーストランナー男性	団塊ファーストランナー男性を夫にもつ女性
自由に外出や運動ができる年齢	76.8歳	77.4歳	75.8歳

図10 65歳以降の生活すべきこと（MA）



5. 年金を「生活費の中心」という人は76.5%。生活費、こづかいも現在の約8割に。

- ・65歳以降の生活費は月24.6万円、こづかいは月4.2万円。生活費やこづかいは、現在（64歳）のほぼ8割程度になると予想。

図11 年金の使いみち（SA）

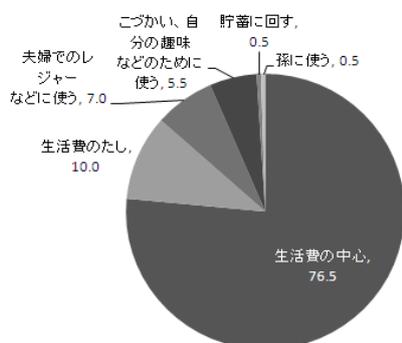


図12 65歳以降の生活費、こづかい予想（FA）

	現在(64歳)	65歳以降
1か月あたりの生活費	28.9万円	24.6万円
1か月あたりのこづかい	5.4万円	4.2万円
1年間あたりの趣味・レジャー費用	37.6万円	34.0万円

<調査概要>

退職リアルライフ調査～団塊ファーストランナーの65歳からの暮らし調査～

実施時期：2012年2月

対象者： 1. 団塊ファーストランナー男性(1947年生まれ)で企業等に勤務する男性200名
2. 団塊ファーストランナー男性を夫にもつ女性(1947～57年生まれ)100名
(男女合計300名)

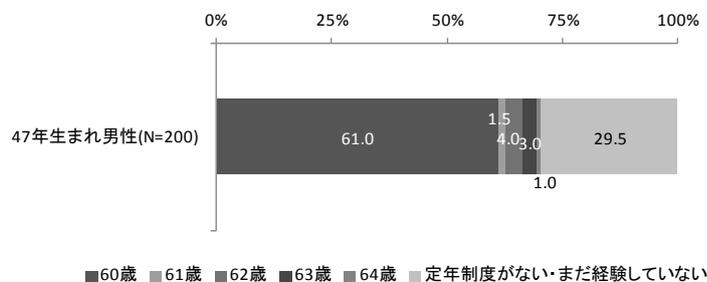
調査方法：インターネット調査

調査地域：全国

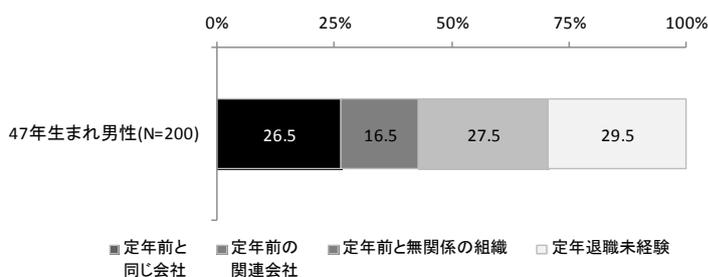
調査実施機関：株式会社ビデオリサーチ

回答者（男性）プロフィール

定年経験有無



現在（64歳時点）の働き方



【本リリースに関する問い合わせ先】

■電通総研 シニアプロジェクト 齊藤、花島
TEL：03-6216-8458
FAX：03-6217-5657